

下肢装具作製後のフォローアップに関するユーザーアンケート調査報告

株式会社 田村義肢製作所

○橋本 義史、田村 真明、谷川 大輔、加納 奈津子、石井 辰也、大島 沙菜

【はじめに】

当社では 2014 年に下肢装具を作製した利用者に対し、装具や身体状況を把握するためにアンケート調査を実施した。そこで回答のあった利用者の約 4 割がフォローアップの充実を求めている。この様な背景から当社では同年よりパンフレットの配布を開始し、その後装具ノートの運用やメンテナンス時期に関するダイレクトメールの送付といった取り組みを開始した。これまで「装具ノート」に関する調査報告は行われてきたが、複数の取り組みを実施した調査報告はなかったことから、当社のフォローアップに対する成果や課題を検証することを目的にアンケート調査を実施した。

【調査対象・方法】

対象は 2014 年 1 月から 2024 年 6 月までに脳血管障害により短下肢装具を作製した 657 名に限定した。対象者には調査依頼書およびアンケート用紙を郵送し、回答用紙の返送または Google フォームの入力にて自由意志に基づいて収集した。

アンケート内容は主に装具に対する満足度や認知度(装着の目的、耐用年数等)、当社が取り組むフォローアップに対する認知度等を調査した。

【結果・考察】

185 名（回答率 28.2%）からの回答結果によると、装具に対する満足度は 65.5%、認知度については装着目的が 73.1%、耐用年数が 33.1%であった。フォローアップは「パンフレット」19.3%、「装具ノート」43.8%、「ダイレクトメール」36.7%の認知度となり、フォローアップの認知度と利用者の満足度に優位差はなかった。

一方で「パンフレット」認知の有無で装具に対する耐用年数の認識に有意差が見られた。このことから「パンフレット」に記載のある情報が利用者にも有効であったと考える。利用者が耐用年数を認識する事で、メンテナンス時期の把握や装具の劣化に対する意識向上が期待される。今後はフォローアップに対する認知度向上のため、「パンフレット」の記載内容に加え、当社の 3 つの取り組みの再検証や配布時期の見直しを行なっていきたい。